

平成 30 年度第 2 回開成町総合教育会議 議事録

日時：平成 31 年 3 月 26 日（火）16 時～17 時

場所：町民センター中会議室 B

出席者：（町）府川町長

（教育委員会）井上教育長、村岡委員、露木委員、上野委員、本澤委員

（説明員）中戸川教育総務課長

（事務局）秋谷行政推進部長、岩本企画政策課長、大石副主幹、高橋主事

町長あいさつ

○先日の開成幼稚園、開成南小学校、文命中学校の卒業式に出席した際、素晴らしい卒業式で子ども達が短い時間の中で成長していると改めて感じた。

○土曜学校では地域の人達、事業所の力を借りて子ども達に体験を通して力をつけてもらいたい。先日、お花とお茶の体験を見学した際、子ども達が大人になっても役に立つし、人間的にも成長できると感じた。地域の人達にかかわってもらうことも重要である。

○プレイパークについては大人に見守られながら子ども達が自由に遊ぶことができる事業となっているが、子ども達には知識と知恵、自分で考える力をつけてもらいたい。これも地域の人達の力を借りなければやっていけない事業である。

○今後とも町長部局と教育委員会で、開成町の子ども達のために何が出来るかを考えていきたい。

○平成 31 年度から、6 年間の総合計画後期基本計画がスタートするが、そのうちの 3 年間の実施計画も作成した。その中で、教育環境・設備面のこと等様々なことを計画しているので、教育部局と意見交換をしながら進めていきたい。

教育長あいさつ

○町として、教育現場にご理解とご支援をいただいていること、特に、多くの予算を教育に頂いていることに感謝している。これからは是非よろしく願いたい。

議題 1 協議事項 開成町教育大綱について

事務局より、資料（開成町教育大綱）に沿って説明。

○開成町教育大綱については、大綱の期間を平成 30 年度までとしているが、平成 29 年度第 2 回総合教育会議の町長あいさつの中で計画期間を平成 31 年度まで延長させていただきたいという発言があったため、期間の延長のご承諾をいただくということで今回の協議事項として挙げさせていただいた。

【意見交換】

町長：教育大綱の期間については、地方公共団体の長の任期や教育基本計画等との関係もあるが是非延長させてもらいたい。

委員：承認

町長：平成 31 年度の中で見直すものがあれば見直していく。

議題 2 協議事項 第五次開成町総合計画後期基本計画について

事務局より、資料（第五次開成町総合計画後期基本計画、第五次開成町総合計画後期基本計画実施計画、平成 31 年度当初予算案における主な取組）に沿って説明。

【意見交換】

町長：この 4 年間は子育て・教育に力をいれてきた。先日、みなみ地区の自治会の総会に出席した際、赤ちゃんや子どもを連れた若い世代の方々が多く参加されていた。みなみ地区の年齢構成を見ると、若い世代が非常に多い。そういった中で、若い世代が開成町に移り住んでもらえることは、開成町の宝となる。町全体として子ども達のために何ができるか、教育部局の皆さんのご意見を聴きながら計画を進めていきたい。

（開成小学校のグラウンドについて）

村岡委員：（後期基本計画実施計画では）開成小学校のグラウンドの改修の検討が、2021 年度まで何も無いが、このテンポだと遅いのではないかと感じる。

教育総務課長：この 3 年間の中では、大規模な改修は行わないが、必要な修繕等はその都度行っていく。

教育長：危険な箇所や気になる箇所を肅々と修繕していく。

町長：緊急性のある箇所については、前倒しで修繕していこうと考えている。

（生涯学習の推進について）

本澤委員：生涯学習の推進の図書室運営事業について、新庁舎建設後の町民センターの空き室を利用して図書施設の拡充を行うと聞いているが、何か具体的な方向性があれば聞きたい。

行政推進部長：新庁舎が出来た 2020 年度に、町民センターの旧視聴覚室を学習室として拡充して利用するという方向性で固まっている。

町長：仮ではあるが新庁舎建設後は、現在町民センターにある教育委員会、福祉課、保険健康課が新庁舎に移るため、空いたスペースを何か有効活用したい。図書室も細部は決まっていないが、改修を検討している。

（地域のボランティアについて）

上野委員：母子保健推進員の方とお話した際、母子保健推進員のなり手が少なくなっているとのことだった。地域の方のボランティアで成り立っている活動について、ボランティアのなり手がだんだん少なくなっていると感じているため、対策や協力して頂ける人を集める体制づくり等が必要なのではないかと感じる。

町長：自治会の役員や、子ども会の役員等もなり手が見つからない現状がある。今年度、総合計画後期基本計画を策定するにあたり各種団体の皆様と意見交換会をさせていただいた中で、団体に対して町がサポートしていく必要がある部分が多く見えてきた。団体が活動しやすいようサポートしていきたい。一方で、なり手をどうやって育てるかは今後の課題となっているが、教育委員会が新庁舎に移った後の空き室には、様々な自治活動のなり手を育てるようなサポートセンターを作っていきたいという思いがあるが、教育部局でも何か良いアイデアがあれば教えてほしい。

教育長：土曜学校等、子ども達が地域の大人とかかわる経験をする中で、そういったボランティアのなり手が育っていくのだろうと思うので、時間はかかるが今の体制を長く続けることも一つの手法ではないか。

上野委員：働いている若い世代はどこで接点を持てばよいか。

教育長：幼稚園等集団教育の初歩の段階で、子どもを通して保護者も地域とかかわっていただくことが重要と考える。

村岡委員：先ほどサポートセンターの話も出たが、何か（自治活動を）やりたいがどこに行けばいいのかわからない方々もいる。今後は、そういった方々をサポートする仕組みづくりが重要ではないか。

企画政策課長：4月1日号の広報かいせいの特集は「協働」について取り上げており、地域の方々の活動を紹介させていただき、何か（自治活動を）やりたいと考えている方は一歩踏み出してみてもはどうかというような内容となっている。

村岡委員：“何かやりたいがやれるかな”と考える方々に対して、広報の特集等で PR することは非常に有効だと考える。

（図書について）

露木委員：開成町では、毎月 1 日をファミリー読書デーとしているが、こういったことが町をあげてできることは非常にいいことだと思う。町の図書室や各学校の図書の充実も大事なことなので、図書充実のための予算化の検討をお願いしたい。

行政推進部長：篤志家の方から図書のための寄附をいただいたという経過もあるので、町のほうでも考えていきたい。

教育総務課長：開成町の小学校については、学校の図書標準の 1.5 倍から 2 倍の蔵書数となっており、文命中学校については図書標準よりも少ない状況となっている。文命中学校は図書室のスペースが少ないハード面の問題もあるため、大規模改修の際に考えていく必要がある。また、開成町の最大の特徴としては、学校に専任の図書司書が町単独雇用でいるということ。近隣で図書司書を配置しているのは、南足柄市のみとなっている。予算については、消耗品の中で図書を購入しているが、平成 31 年度予算では 30 年度よりも消耗品の予算を多くとっている。

（外国語教育について）

本澤委員：外国語教育について、講師として外国語が堪能な方のボランティアを募ってはどうか。

教育長：2020 年度以降、本格的に外国語教育の強化がはじまった際は、そういった手法もあると考える。

（2020 年度の学習指導要領について）

教育長：2020 年度からの新しい学習指導要領では、小学生の授業時間が現在より 20 時間増える。トータルで 1015 時間は最低授業時間を確保する必要があり、これは中学生の授業時間数と同じとなっている。2019 年度については 10 連休があるため、2020 年度に向けての試行として夏休みを 3 日間削り、2 学期を早めに行いたい。4 月に保護者宛て通知と夏休み終了後保護者へのアンケートを行いたいと考えている。その後、2020 年度に向けて規則等を改正し、夏休みを 3 日間減らしていきたいと考えている。

以上